

新たなチャレンジに向けて

株式会社システムユニ
代表取締役 岡田 敏明

先行き不透明な経済情勢の中で、営業活動をはじめとして企業活動において各社とも厳しい試練の時を迎えています。ピンチであると同時に、こうした時に一歩前に進めた会社はゆくゆく大きな飛躍のチャンスであるとも言えます。

かつて、江戸時代の儒学者佐藤一斎は『成名有窮苦、破事有得意』（名を成すは、ことごとく困窮の時にあり、事の破るるは多く得意の時にあり）「言志晩録」という言葉を残しています。

過去を振り返ってみましても、こうした時期にこそ地道なモノづくりに立ち返って、現状の企業活動全般の総点検、新たな仕組みづくり、将来に向けての人材の育成を一步一步進めていくことがますます必要となってきたと思います。

これまでの景気後退期には、多くの企業で販売・生産の急激な減少に対応できないまま、欠品や滞留在庫を生み、資金繰りのますますの悪化、人財・ノウハウなど様々な資産の喪失を繰り返してきました。販売・生産の急激な減少は開発・調達・生産・外注など関係するすべての現状プロセスを見直し、仕組みの再構築と新たな運用に迫られています。しかし、こうしたことを推進する社内人材がない、外部コンサルタントにお願いしたが一時的なカンフル剤で終わってしまった、過去に多くの費用をかけた生産管理システムが動かない、などからあとは人減らしという「リストラ」が事業の縮小しかない閉塞感に陥っているのではないかと思います。

弊社は中堅製造業に対し新しい仕組みづくりとプロセスが解る生産管理人材の育成、攻撃型生産管理（ティーピクス）の導入を中心とした支援を行っております。攻撃型とはこれまでの自社の生産のプロセスを見直し、常に新たな仕組みづくりにチャレンジし続けるとの思いから TPiGS(ティーピクス)研究所の二ノ宮所長が命名しました。

私どもはこの『攻撃型生産管理』の思いをシステム構築・運用支援を通じて実現すべく、10年近く前に会社を創業しました。

残念ながらこれまで多くの製造業で多大な費用と時間を費やした割には生産管理システムが必ずしも効果をあげていないのが実状です。さらに最悪なことに、こうした厳しい経済業況になっても、現状の生産管理システムの運用責任者は問題の所在がどこにあるのかあいまいなまま、または解っていても報告を

上げないまま、使い続けているのが現状です。年度末の決算を待つまでもなく、販売・生産の減少に反比例するように、欠品・滞留品の発生が起こっており、早急に日々の生産プロセスを見直し、出血を止めるための手立てをする必要があります。

当社はこれまで自動車部品、電機、金属加工、機械加工、食品、アパレル（衣料品）、医薬品関連等各業界を含め国内海外含め約30社の導入支援をさせていただき、確実に立ち上げ、現在も継続してシステム運用・生産管理人材研修をさせていただいています。

弊社が今日まで運用支援させていただいている理由は以下の3つの条件があった、また結果として条件を整えていただいたからであったと確信しています。

- 1) 自社の業務に耐えられる生産管理システムの選定（この場合 TPiCS）
- 2) 社内協力体制・自社のプロセスを熟知した人材（結果として育成できた）
- 3) 短期で確実な運用に繋がる導入・運用支援（弊社）

多くの製造業・システム会社ともこの3つの条件での支援・運用が出来ていないのが実態です。（現在、過去に構築してきた生産管理システムが十分機能していないために多くの企業が苦しんでいます。）

弊社の目指す導入支援は

- ①常に現場（開発、生産、販売、物流）のプロセスを理解し、達成すべき高い目標を持ったリーダー・メンバーを選定するまたは育成する。
- ②導入にあたって経営者・経営陣と導入の狙い、目標を十分に話し合い明確にする。
- ③新しい仕組みづくりの定着に向けては、現場に入り現場の人たちと一緒に考えて、協力を引き出し、現場の意識を変え、実行するための支援を行う。
- ④生産管理システムを日々の生産活動と完全に連動させ、根気よく運用を続け、改善、改革を推進する人材を会社の中に残すこと等を方針に掲げ実施しております。

攻撃型生産管理システムTPiCSは基幹システムとして受注・出荷業務、工程管理（作業指示・工程進捗管理）、発注業務（仕入、協力会社）、月次決算業務、原価管理全般をシステム化され活用されております。

「攻撃型生産管理システムTPiCS（ティーピクス）はティーピクス研究所が開発しましたMRP（f-MRP：フレキシブルMRPと称している）を主体とした生産管理システムで現在企業は約1,600社の導入実績があり、また中国語版、英語版があり、海外日系企業にも多数導入されています。」

（コストパフォーマンスは国内トップです。）